

### 第23回「CCJケースメソッド研究会」(2017年12月5日開催)

日本ケースセンターは、ケースメソッド授業の運営能力の向上に資するため、参加者同士で研鑽する「CCJケースメソッド研究会」を開催しています。

昨年度までは、有志によるディスカッションリードを実践した後に、その日のケースリードや討議展開を振り返って授業運営の改善策を検討し、皆で授業運営スキルを学ぶ内容で開催してまいりました。本年度からは、課題ケースを用意し、それを使って参加者各自が考える授業計画を事前に検討し、それを持ち寄って、当該ケースで教育実践の可能性がどこまで広がるかを中心に討議・探求しています。

今回は、昨年までの試行も少し寄り戻して、前半でケースのデモ討議を試行し、後半では、あらかじめ各自で検討し、持ち寄った、「このケースで考える私の論点」を全員で議論する構成で研究会を試行してみました。



今回は、青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科の黒岩健一郎先生をケースリーダーに迎え、「ウーバー(Uber)」を課題ケースに取り上げ、前半の90分間を使い事前課題の「設問」に沿って、デモ討議を展開していただきました。その中で、ウーバーについてより臨場感をもって議論をしてもらおう一つの工夫として、討議の冒頭でまず UberEAT を使ってネット注文を入れ、30分と経たぬ間に軽食のデリバリーが到着したところで、配達員の方へウーバーで仕事を始めた経験などについてのインタビューも折り込む等、趣向を凝らした授業を展開していただきました。

後半のディブリーフィングでは、モデレーター竹内伸一先生によるファシリテーションで、今日の討議を振り返り、参加者の多様な視点や気づきを引出した後、事前課題で参加者から提出された「このケースで考える私の論点」について考察した。はじめに、モデレーターが分析、視覚化した各アプローチの大別チャートで全体を俯瞰した後に、全員で自由に討議して所見を相互に出し合って共有しました。

今回、はじめて参加された方が約3割いらしたところ、ややハードルが高いと思われる事前課題であったものの、「温かい雰囲気でも迎えていただいた」、「皆さんの多様な視点からの意見を通して、多くの気づきと学びを得ることが出来ました」、「皆さんの鋭い多角的な観点からの発言がこの研究会の魅力のひとつだと思います」などといったお声をいただきました。今後も工夫を凝らし、引き続きはじめての方にも参加しやすい会を開催してまいります。